

大阪商業大学 共同参画研究所紀要

第1号

目 次

発刊によせて	大阪商業大学 学長 谷岡 一郎	iii
発刊にあたり	大阪商業大学共同参画研究所 所長 的場 啓一	v

【論 文】

乳幼児向け絵本に関する考察

— こどものとも0.1.2を中心に —	浜崎 由紀 1
	山田千都留
	内山三枝子

音と身体運動に着目した子育て支援プログラムの開発	松井 典子 21
	高橋 仁美

子育て支援と交通政策

— フランスの都市交通政策に着目して —	湯川創太郎 35
	南 聡一郎

【研究ノート】

大学と連携した「地域が支える子育て」の仕組みづくりについて	加藤 司 53
-------------------------------------	---------

A review of the methods for the assessment of local policy adoption

in the field of child vaccination in Japan	山内 康弘 69
--	----------

2019（令和元）年度 共同参画研究所 事業報告	79
--------------------------------	----

発刊によせて

「大阪商業大学共同参画研究所（以下「(当) 研究所」）」は、その名の示すとおり多文化共生による社会の発展をめざすためのものです。世の中には性別や年齢の違いはもとより、ハンディや障がいのある人々、海外の文化に慣れ親しんだ人々など、異なるすべての価値観や様式を持つ人々がいます。それらの人々がそれぞれの持ち味を活かし、時には欠点をカバーし合って活躍できる社会こそが、本来あるべき社会の姿であるはずですが、それは我々のめざす社会でもあり、そのための研究をスタートしたのです。今は一部の分野に特化した研究に限られ、理想とする姿からはまだまだ遠いものと考えますが、まずはできるところからやってみようということでスタートしました。

当研究所は、そもそも藤井寺市の大阪女子短期大学で活動していた、「子育て支援研究所」という小さな組織が前身です。大阪女子短期大学の閉学に伴い、その所在地を大阪商業大学に移し、内容をより充実しつつ名称を変え、2018（平成30）年に再スタートしました。ありがたいことに、それまで共同研究体制をとってくれていた藤井寺市からは、住所や内容の変更にも拘らず、継続してご協力をいただけることになりました。岡田一樹市長を含め、スタッフの方々の心の広い寛容な方針に感謝し、この場を借りて心よりお礼申し上げたいと思います。

この冊子、共同参画研究所の紀要は、2018（平成30）年に再スタートした当研究所の活動に基づいています。投稿論文（研究ノートを含む）あり、講演会・講座の記録やその他の活動報告などもあり、盛りだくさんの内容です。いわば当研究所の目的に従って立案された中期計画の結果報告でもあり、従って現在進行形のプロジェクトも含まれています。さらに言えば、当研究所の今後の方向性の一部を示すものでもあります。ぜひお目通しいただき、忌憚ないご批判、ご指示、ご指導をいただきたく存じます。なぜならそれらは我々の欠点を知り、新たな道に進むよすがとなるからです。活動に興味を持っていただける方におかれましては、是非一度研究所を訪ねてみて下さい。河内小阪駅前の新校舎リアクト（re-Act）の2階にオフィスがあります。予めご連絡いただけますとスタッフがお待ちして対応いたします。

当研究所の再スタートにあたり、大阪商業大学教授的場啓一先生に所長をお願いしました。現在は大阪商業大学附属幼稚園の園長も兼任しておられますが、多忙の中、多くの労力を当研究所の充実にあてておられます。むろん教授としても活躍され、学生からも慕われていて、同じ教員として常にお手本とすべき方だと考えています。

最後になりましたが、本紀要の出版の労をとっていただいた関係者の皆さま、および内容充実に寄与していただいた研究者・関係者の皆さまにお礼申し上げます。

ここに紀要創刊号をお送りします。

2020（令和2）年春

大阪商業大学 学長 谷 岡 一 郎

発刊にあたり

大阪商業大学共同参画研究所は、本学の公共学部設立と時期を同じくして2018（平成30）年4月に設立しました。

我が国では、憲法において「すべて国民は、個人として尊重される」と謳われており、すべての人が個人として尊重されなければなりません。つまり、「性別」「年齢」「障がいの有無」「国籍」などの違いによって誰もが排除されることなく、同じ公共空間を共有するすべての人が尊厳を持つ個人として尊重されなければなりません。

しかし、私たちが暮らす地域社会では、都市化の進展と個人主義の浸透により、人と人とのつながりや絆が浅く、薄くなり、「社会的孤立」「社会的排除」といった言葉も現れています。

地域社会には、幼児、女性、高齢者、障がい者、生活困窮者、外国人など社会的にも経済的にも弱者が存在していますが、これらの人たちは時として「社会的孤立」「社会的排除」の対象となってしまいます。また、子から孫の世代へと引き継がれていく世代間連鎖の可能性を持ったものもあります。

いま、「社会的孤立」「社会的排除」の対象となりかねない「社会的弱者」も包摂し、すべての個人の尊厳が大切にされ、守られた、「共同参画」の理念のうえに立脚した地域社会づくりが求められています。すべての人が、この問題に取り組む当事者意識を持ち、行政やさまざまな団体等と協働して対処していく必要があります。

共同参画研究所は、本学の建学の理念である「世に役立つ人物の養成」のもと、「社会的孤立」「社会的排除」、また「社会的包摂」など「共同参画」にかかわる調査、研究を積み重ね、得られた「知見」の地域社会への還元を目指しています。

そのために共同参画研究所では、地域社会創造の担い手である地方自治体、自治会、NPO法人及び企業などにかかわる人々の「共同参画」に対する認識を深め、「共同参画」に関する研究や具体的な課題解決に向けた取組の調査、研究を推し進め、地域社会で活躍できる人材の育成と政策提言を行う機関として、活動を続けてまいります。

共同参画研究所は、これまで子どもや高齢者にかかわる4件の研究プロジェクトを採択し、研究助成を行うとともに、大阪府藤井寺市において、地域子育てで支援拠点事業を展開して、地域の子育て家庭の交流と子育ての不安軽減に努めています。また、2019（令和元）年には、近隣の地方自治体から嘱託研究員を招き、それぞれの自治体が抱える地域課題に関して、理論だけでなく、実践につながる政策に直結した研究を推し進めています。

さらに、地域社会の方々にもご参加いただく公開講座をこれまで2回開催し、共同参画研究

所の設立と目的なども含め、「共同参画」に関する啓発にも取り組んでまいりました。ご参加いただいた方々から、激励のお言葉もいただき、共同参画研究所の諸活動の励みにもなっています。

そのような中、この度ここに、共同参画研究所が設立されて以来の研究成果を取りまとめた記念すべき紀要第1号を発刊する運びとなりました。研究論文4本、研究ノート2本を掲載いたしておりますので、広くご高覧いただき、地域社会における「共同参画」「社会的包摂」を推進するための一助として、役立てていただければ幸いです。

これからも共同参画研究所は、本学の建学の理念に沿って、学生、学外の方々とともに、当研究所にかかわる者が一丸となって「共同参画」の推進に取り組んでいく所存でございますので、ご批判も含め、皆さま方からご意見等いただければ幸甚に存じます。

大阪商業大学共同参画研究所 所長 的 場 啓 一